

司法面接支援室通信

2014年度 北大開催のNICHDガイドライン研修についてのご案内

北大NICHDガイドライン研修は以下の日程での開催を予定しております。詳細情報につきましては、プロジェクトホームページ (<http://child.let.hokudai.ac.jp/>) をご参照ください。

- 6月16日(月), 17日(火) ホームページに情報をアップいたしました!!
- 10月20日(月), 21日(火) 詳細は未定です
- 11月10日(月), 11日(火) 詳細は未定です

3月・4月の行事予定

- 3月1-2日 新学術領域・法と人間科学 領域合宿 (慶応義塾大学)
- 3月2日 新学術領域・法と人間科学主催 模擬裁判 (慶応義塾大学)
- 3月5日 JST「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域 フォローアップ報告会
- 3月6-9日 The 2014 annual conference of the American Psychology-Law Society
- 3月18-19日 山口県児童相談所 NICHDガイドライン研修
- 3月21-23日 日本発達心理学会第25回大会 (京都大学)

1月・2月の行事報告

- 1月7日 東京地方検察庁 「子どもの供述特性を踏まえた聴取技法研修」
- 1月8日 函館家庭裁判所 「最近の司法面接の動向」
- 1月15日 札幌家庭裁判所 「司法面接における子どもの面接技法」
- 1月20日 仙台家庭裁判所 「子どもの意向・心情の把握・考慮について考える①」
- 1月23日 北海道警察 「供述特性を踏まえた聴取技法～研修の重要性～」
- 1月27-28日 京都市児童相談所 NICHDガイドライン研修
- 1月29日 精神医療センター 「虐待から子どもを守る司法面接技法」
- 2月1日 犯罪心理学会地区研究会 「司法面接の取組 - 自由報告と面接の構造 -」
- 2月3-4日 埼玉県児童相談所 NICHDガイドライン研修
- 2月5日 仙台家庭裁判所 「子どもの意向・心情の把握・考慮について考える②」
- 2月10日 長崎こども・女性・障害者支援センター 司法面接フォローアップ研修②
- 2月17日 旭川地方裁判所 「被害児童からの客観的聴取 - 司法面接法の取組 -」
- 2月25日 伊達紋別バウムハウス 「虐待が疑われる場合の聞き取りの基本：司法面接」
- 2月27日 福井地方検察庁 NICHDガイドライン研修



司法と福祉



このコーナーでは、新学術領域「法と人間科学」の司法と福祉班の先生方に、司法面接と関連する様々なテーマでご執筆頂きます。

2. wifi 機能付きのビデオカメラを用いた簡易観察室

司法面接支援室が外部に出張して司法面接を行う際には、面接室に置くビデオカメラと観察室に置くモニターを持って行きます。モニターは部屋の状況に合わせて、テレビや液晶プロジェクタを用いる場合もあります。比較的少人数で観察する場合は、wifi 機能を持った画像送信機とモニター付き受信機（Sony の Location Free 等）を用いる事もありました。

2012 年あたりから、いくつかのメーカーから wifi 機能付きのビデオカメラが発売されています。wifi 機能の中に、ビデオカメラの画像と音声を遠隔地でスマートフォンなどのモバイル端末で観察できる機能もあります。

wifi 機能を持つ JVC のビデオカメラ「GZ-EX270」とモバイル端末（Apple の iPad, iPod-touch, そして Google の Nexus7 (Android)）で、簡易的な面接室と観察室を設定できるか試みました。

ビデオのデータそのものはビデオカメラ本体に保存されます。そして、リアルタイムでモバイル端末に映像が送られます。観察室で用いるモバイル端末では、音質が十分であれば、画質は多少落ちて構わないと思います。

モバイル端末で観察をしてみました。音質は気になりませんでした。画質は、ビデオカメラ本体に記録される画像より劣化していました。ビデオデータそのものを転送しているのではなく、jpeg 画像を連続的に転送していると推測します。この際のピクセル数がビデオの最大性能の大きさよりも小さいと想像されます。観察の目的の画像としては十分と思えました。

モバイル端末の iPad, iPod-touch (iPhone 相当), Nexus7 (Android) で使用感を比較してみました。iPad 用の専用アプリはなく、iPhone 用のアプリを 2 倍に拡大して表示させています。このため、iPad の大画面のメリットはありませんでした。iPod-touch (iPhone 相当) 用アプリと Nexus7 (Android) 用アプリを比較して遜色はありませんでした。



iPad



Android



iPod touch

大画面のモバイル端末を使うならば、Android の方が観察の目的に適していると思います。

ビデオカメラの wifi の電波の強度があまり大きくない様子で、鉄筋の建物の場合に隣の部屋に移動するだけで電波が不安定になりました。別途、無線ルータなどの準備が必要となる場合もあるでしょう。

上記 wifi 機能を持ったビデオカメラとモバイル端末で、簡易的な面接室と観察室の設営は可能と思います。残念ながら JVC のビデオカメラ「GZ-EX270」は、外部マイクの入力端子を備えていません。子どもの小さな声を収録するためには、外部マイクは是非使いたいです。米国で発売されている JVC のビデオカメラには外部マイクの入力端子を備えた機種もあるのですが、日本では販売されていない様子です。

JVC 以外にも Canon や Sony などから wifi 機能付きのビデオカメラが発売になっています。これらの中には外部マイクの入力端子を備えた機種もあります。

武田 知明 (仲班)

北海道大学司法面接支援室 室員



研究通信

このコーナーでは、支援室の室員や仲研究室の院生を中心に、司法面接に関連する学術研究をご紹介します。

子どもの記憶：知的障がいの程度、報告までの遅延時間、面接技法の影響

The influences of delay and severity of intellectual disability on event memory in children.

Brown, Lewis, Lamb, & Stephens (2012). *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, 80, 829-841.

知的障がい児は虐待の被害者、目撃者となる可能性が高いといわれています。そして、知的障がい児は虐待を自発的に報告しない可能性が高いため、適切な方法で虐待の訴えを取り調べるのが難しいといわれています。また、彼らの能力やその能力の限界について、法廷で認知されません。以上の点から、専門家は以下の3点が必要であると考えています。(1) 知的障がい児などの弱い立場にある目撃者の能力を伝えること (2) 信頼性を損なうことなく報告を容易にする面接技法を示すこと (3) 知的障がいを持つ若年の被害者や目撃者の権利を改善するための法システムのリソース、ガイドライン、教育の開発です。

今回は、知的障がい児による体験した出来事の報告と、障がいの程度、報告までの遅延時間、面接技法との関連を検討した論文を紹介したいと思います。

【方法】 参加者：子ども 206 名が参加しました。

参加者	人数	平均年齢(月齢)	平均IQ
中度知的障がい児	35	117.71か月	47.94
軽度知的障がい児	46	116.87か月	67.67
健常児(生活年齢)	60	114.92か月	100.66
健常児(精神年齢)	65	75.66か月	102.37

手続き：以下の手続きで調査が行われました。

- (1) イベント：子どもたちは、3つのグループに分かれ、学校の教室やホールで3つの活動を行いました。
- (2) 認知検査：WISC-III-uk と WPPSI-III-uk を実施しました。
- (3) 面接：半分の参加者は、イベント 1 週間後に、残りの参加者は 6 ヶ月後に面接を行いました。面接では、イベントで体験した内容について聞き取りました。面接では、NICHD プロトコルが用いられました。面接者は、オープン質問、手がかり質問、WH 質問を用いました。休憩後、クローズド質問、誘導質問を用いて聞き取りを行いました。

【結果】 調査結果から以下の3点が明らかになりました。

1. 知的障がい児は体験をどの程度正確に報告するのか？

中度知的障がい児は、他のグループよりも経験したことを正確に報告できないことが示されました。一方、軽度知的障がい児は精神年齢の同じ健常児と同程度に正確な報告を行うことができました。また、面接を 1 週間後に行った方が、6 ヶ月後よりも正確性が高いことが示されました。

2. 知的障がい児に最も効果的な面接技法は何か？

1 週間後に面接が行われた条件では、オープン質問に対する反応がその他の質問への反応よりも正確でした。面接が 6 ヶ月後に行われた条件では、オープン質問>手がかり質問>WH 質問>クローズド質問の順に正確性が低下しました。知的障がい児に最も効果的な面接技法は健常児と同様にオープン質問であることがわかりました。

3. 知的障がい児は誘導質問に影響されやすいのか？

誘導質問に対する報告では、出来事から 1 週間後に面接を行った方が、6 ヶ月後に行う場合よりも正確性が高いことが示されました。生活年齢が同じ健常児は最も正確に報告し、中度知的障がい児は最も正確ではありませんでした。軽度知的障がい児と精神年齢が同じ健常児の報告の正確性はその他のグループの中間でした。

【考察】 本研究の結果から、知的障がい児は、健常児に比べて経験した出来事について信頼できる報告を行うことができないことが示されました。しかし、司法面接法（特に、オープン質問）による聞き取りを行った場合、知的障がい児であっても体験した出来事について正確に報告できることが解りました。また、出来事から報告までの遅延時間による記憶の忘却では、知的障がいの有無による差は見られなかったことから、知的障がい児も健常児も同様の忘却のプロセスが働くと思われます。結果から、司法面接は知的障がいを持つ子どもに対して聞き取りを行う場合にも有効であるといえます。

【最後に】 知的障がい児は司法面接法による聞き取りの場合、健常児と同程度の正確性で報告を行うことができました。知的障がい児の場合にも、オープン質問を始めとする適切な質問によって聞き取りを行うことが大切であるといえます。

【論文紹介者】

名畑康之（なばた やすゆき）

日本学術振興会 特別研究員（北海道大学）

研究テーマ：裁判員による意思決定